



第4回 （仮称）平和資料館開設準備懇話会

日 時：令和3年7月1日（木）

10：30～12：00

場 所：15C会議室（本庁舎15階）

次 第

1 開 会

2 報 告

（1）（仮称）平和資料館の建設工事の進捗状況について

（2）第3回懇話会における委員の意見について

3 議 題

（1）事業計画の策定について

4 閉 会

（仮称）平和資料館開設準備懇話会の目的・進め方について

1 目的

市民に戦争の悲惨さ等を後世に伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとする（仮称）平和資料館（以下「資料館」という）の開館に向けて、自主事業や管理・運営体制等について、具体的な検討が必要であるため、専門的な見地からの意見も聴取する「（仮称）平和資料館開設準備懇話会」（以下「懇話会」という）を開催する。

2 開催期間

令和元年8月～令和4年4月（4回程度）

3 懇話会の進め方（意見聴取事項）

開催日等	意見聴取事項
（令和元年度） 第1回：8月27日（火）	○（仮称）平和資料館基本計画・実施設計 ○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・プロローグ（導入展示） ○館の自主事業（展示以外）
第2回：1月30日（木）	○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・戦前の北九州 ・戦争と市民の暮らし ○館の管理・運営（ボランティアの導入）
（令和2年度） 第3回：8月26日（水）	○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・空襲の記憶 ・運命の昭和20年8月8日・9日 ・戦後の復興 ・エピローグ 等 ○館の管理・運営（戦時資料の収集）
（令和3年度） 第4回：7月 1日（木）	○事業計画（名称、料金、開館時間等）について
第5回： 月 日（ ）	○懇話会における委員意見の整理について

4 懇話会後の取り組み

懇話会の構成員（委員）の意見を参考に、自主事業や管理・運営体制等をまとめ、事業計画を作成する。

（仮称）平和資料館開設準備懇話会構成員名簿

1 構成員名簿

氏 名	所 属 等
後藤 みな子	一般社団法人 北九州文学協会理事長
◎ 近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授
佐方 はるみ	九州女子大学人間科学部特任教授
篠崎 桂子	長崎原爆資料館館長
戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長
風 恵美	松永文庫 室長代理
○ 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
吉水 請子	極東ファディ株式会社 取締役

◎座長 ○副座長

（敬称略・50音順）

2 市側名簿

氏 名	所 属 等
高松 浩文	総務局長
末吉 和久	総務局総務部長
田爪 康隆	総務局平和資料館担当課長

【事務局】

総務局総務課（平和資料館担当）

報告（１）

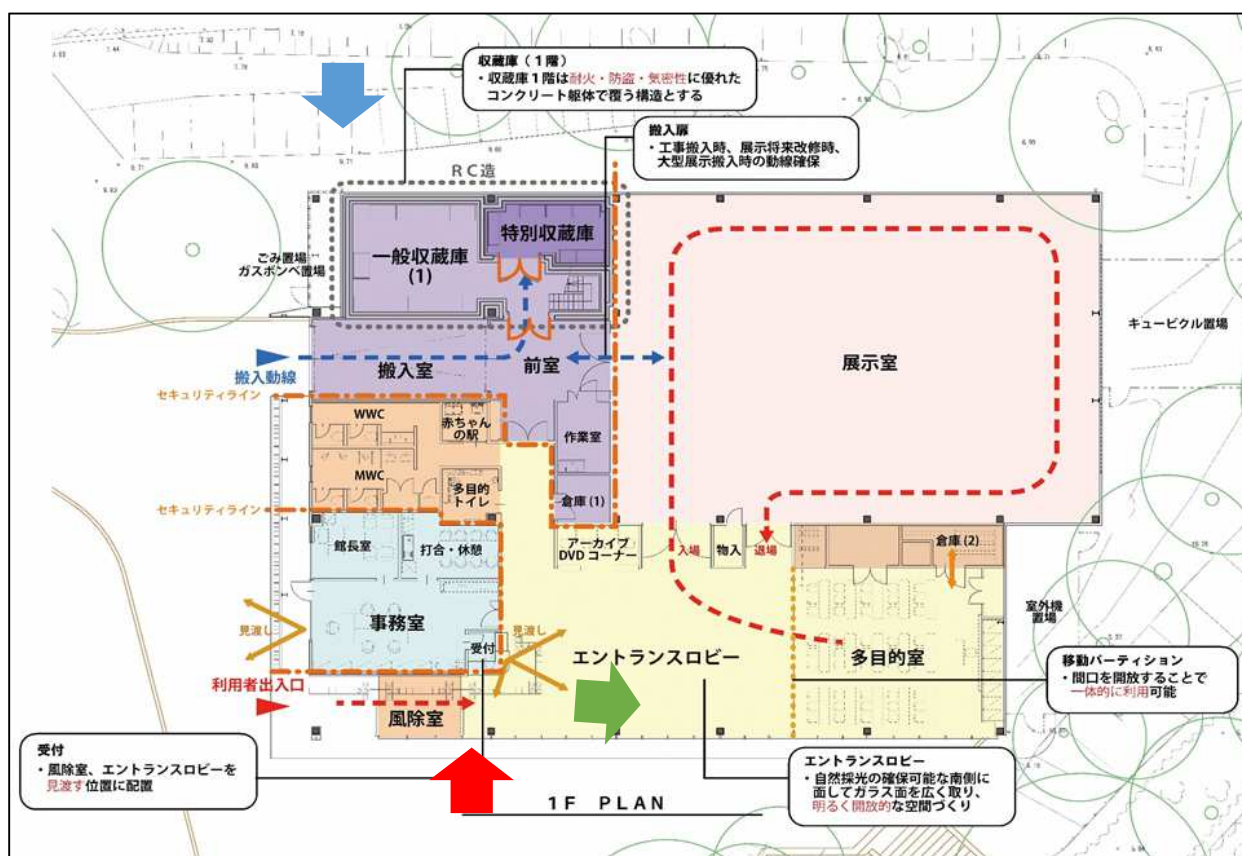
（仮称）平和資料館の建設工事の進捗について

（説明資料）

- ・ （仮称）平和資料館の建設工事の進捗状況について

(仮称) 平和資料館建設工事の状況 (令和3年6月23日)

1 全体図



2 松本清張記念館前から



3 子ども図書館側から



4 子ども図書館側から（エントランス）



報告（２）

第３回懇話会における委員の主な意見等

（説明資料）

- ・ 第３回懇話会における委員の主な意見等

第3回懇話会における委員の主な意見等

■議題1－(1) コンセプトに基づく展示内容の整理について

：「空襲の記憶」・「運命の昭和20年8月8日・9日」

(「空襲の記憶」に関する意見)

- ・当時の小学校とか中学校の教育内容や新聞の報道内容が子どもたちに与えた影響など、戦争に至るまでのバックグラウンドをもう少し入れる必要があるのではないかな。
- ・風船爆弾の仕組みや製造方法に関する展示では、当時、女子挺身隊の方が風船爆弾の製造に係っていた。その記録等が大事だ。
- ・原爆資料館では感染予防対策として、触れることができる展示にはカバーをしたり、タッチパネルは触れさせないようにしたりという対策を講じている。また、タッチパネルの画面も触れさせない時間はスライドショーによる展示ができるようにしておくなど、アフターコロナの資料館としての準備が必要ではないかな。
- ・北九州市は物づくりの町なので、触らずに画面を変えるタッチパネルの開発も可能だと思う。工夫をしながら対応していただければと思う。

(「運命の昭和20年8月8日・9日」に関する意見)

- ・シアター展示がすごく印象には残るが、ここでは、8月8日に八幡大空襲があって、9日にB29が来て、旋回して長崎に行ったぐらいしか紹介していないので、小倉に資料館を建設する必要があったということが、ちょっと印象として弱いように感じた。
- ・映像や技術を駆使していることはよく分かったが、展示は、もう1回ゆっくり来てみようと思うようなものでないといけない。
- ・戦争を体験した人は多くないため、事実をきちんと伝えることは非常に重要である。戦争体験者に検証してもらいながら展示の制作をしていただきたい。

■議題1－(1) コンセプトに基づく展示内容の整理について

：「戦後の復興」・「エピローグ」

(「戦後の復興」に関する意見)

- ・戦後復興を映像で見せるという事は非常に大事だと思うが、実物資料を見せることも大事なので、戦後に企業がつくってきた製品などを展示するのも良い。
- ・戦争映画の展示資料で、来館者がいちばん熱心に見るのが戦時中の実物資料である。映画チラシには、焼夷弾の炎をバケツリレーで消す「手順表」や配給カレンダーが印刷されている。暮らしと密接している資料は、来館者が興味を持ち、その頃の暮らしぶりを想像してもらえる資料として貴重なものだ。
- ・「運命の日8月8日・9日」の展示は、何も知らずに来た人たちにとっては、重たい映像を見ることになるため、「戦後の復興」の展示がより大事になる。

（「エピローグ」に関する意見）

- 戦争の悲惨さとか怖さとか、戦争はしてはいけないとか、戦後の復興は資料館を見て、体験していけば分かるが、資料館の建設の原点である「なぜ小倉に？」というのがエピローグに、もっと表れていいのではないかな。
- SDGsについて展示するのなら、戦後復興の原点であった物づくりが公害で停滞し、復活するという形でのSDGsということが分からないとシビックプライドに結び付きにくい。
- 戦争が終わって、先人が、がんばって今日の北九州市を構築した。本当に苦しい中で、製造業の企業のがんばりで、働くところがたくさんあったという事を展示して欲しい。また、子どもたちに、物づくりに対して興味がわくように工夫して欲しい。
- 資料館は事実を紹介する場であるが、その後、我々がどういう形で平和を守るか。「未来」・「現在」をどう考えて、どう繋げていくか。これからどうするかについては非常に工夫をしないとイケない。今後の運営でも非常に気を付けなければいけないし、これを基にしながらそういうものは「未来」に対しての働き掛けで重要なのである。
- 「平和」ということを通しながら、「地球がシビックプライドを持って、未来に向かって」という子どもたちにとってのメッセージを込められたらいい。
- 「プロローグ」から「エピローグ」までどう繋ぐか。ストーリーの中で、この地にどういう意味があるかをきちんと認識できるような形が必要。また、何を主張しているかを分かるような形。展示を見た後に立ちどまって考えていく時間が、非常に重要になる。
- 「エピローグ」では、最後に感想を書くところがあるが、それ以上に、展示を見た後に、一人ひとりのものとする沈黙考というような、ゆとりみたいなものも必要ではないかな。

■議題１－（２） コンセプトに基づく展示内容の整理：「非核平和都市宣言」

- 非核平和都市宣言の紹介は、展示コーナーの中で、過去の戦争を経て、市として平和のメッセージがあるというストーリーが来館者には分かりやすいのではないかな。
- 入口の付近に展示することは、ロビーの中などで入館者の目に触れる機会が多いとなるが、入館者の動線を考えると思いのほか足を止めにくいのではないかな。
- 宣言や北九州市が平和に対して取り組んできたことは、動線としては最初じゃなくて、最後の方で展示する方がいいのでは。また、宣言は読み仮名を打つことも必要では。
- 宣言を広く周知したいのであれば、設置場所を決めておく必要があるのかという気もする。状況に応じて、設置場所を移動することも可能ではないかな。
- ここだったら見るだろうと思って置いても、実際に置いてみると見てもらえなかったというのは経験上多い。初めから決めずに、施設ができてから設置でも良いのでは。
- 動線ではなかなか目に留まらないなら、パンフレットの形で渡せるほうが親切ではないかな。外国語も含めた形で、印刷物として用意する。
- 宣言の内容は、展示の中から、それぞれに感じ取ることがいちばん重要ではないかな。目に留まるのか留まらないとか、どこに展示するのかという事は重要なことではなく、展示室を最後まで歩いて「こういうことなんだ」と思うことがいちばん大切なことでは。

■議題2 資料館の管理・運営：「戦時資料の収集」

（「学芸員」に関する意見）

- 学芸員を配置するなら複数配置した方がいい。
- 学芸員の役割というのはかなり重要。市の職員として仮に採用するとしたら、長い年月の間、1人か2人で担当することになる。

（「資料の収集」に関する意見）

- 寄贈者の気持ちはあるが、資料の寄贈は全て受け取ることはできない。収蔵庫にも限りがある。仮に受け取ったとしてもコンセプトに基づかないものは展示できないことを伝える必要がある。
- 寄贈を受けて展示するまでの一定のルールは必要。原爆資料館では、毎年夏、その年の6月までに寄贈された資料を収蔵品展として企画・展示している。
- 資料を収集する際は、その資料にまつわるエピソードや寄贈者の戦争体験。家族である場合は聞いていた話しなどを詳しく聞き取っておくことが重要。寄贈いただく際に、学芸員が詳しく聞き取りをしている。
- 平和をテーマにした記念館等とネットワークを結んで、資料収集のルール作りを行っていくことも必要である。
- いただけるものは全ていただくというスタンスでやっている。しかし、いただいた物を活用できない、表に出せないというのはダメだと思っている。引き受ける時に「光を当ててあげられる場があるかどうか」を第一に考える。難しいものでも、企画やテーマを作って展示することもあるので、「活用できるかできないか」がいちばん大きな判断基準になる。
- 学芸員が必要だと思うし、寄贈を受ける取捨選択も必要だと思う。何でも持って来たらいいというものではない。後世のために使うとか発信する場で、その財産が日の目を見たり、入れ替えができるというのがないと意味がないのでは。
- 古いものをどう残すか、減ることはない。重要なのは劣化を防ぐことである。アーカイブ化、映像に撮る等、3次元データとして保存する。新しい物づくりの、この市においての保存の仕方、データの残し方も必要になる。
- 語り部をAIで造って、語り部が立体映像で話しをする等、北九州は物づくり、ロボットなど、色んな技術があるので、何か後世に伝えるような方法、情報を集める方法も、試験的にやってみてはどうか。
- 「資料いっぱい持っています。」だけど「100年経ってもそのまま大事にしています。」では困る。表に出さないで、大切に保管しているところもある。いい資料は、ある時期、必ず出して、みんなに見せていただきたい。

（「戦争体験の収集」に関する意見）

- 戦争体験の収集は、今後、戦後復興時の体験を集めることがメインになる。5年後、10年後に集めようとしても遅い。いまからやるべきだ。戦争を実際に経験し、戦時下の記憶がある人はほとんどいないが、体験を集めることは必要だ。
- 戦争を体験された方が非常に少なくなるという中、時間との闘いみたいなところがある部分は、早急にやり始めないといけない。生の声みたいな形の物を集めておく必要がある。
- 戦後75年経ったので、女子挺身隊や学徒動員、八幡の大空襲を経験した人もおそらく90歳を過ぎている。その人から話を聞いて残すことは非常に難しいので、長崎は体験を聞いて引き継ぐことを行っている。資料館をつくった若い人が体験を引き継いで聞いていくというのが大事である。
- 市民の戦争体験談を、映像アーカイブで語っていただくような、音声と映像で後々まで見ることができれば良い。

■その他

- ある被爆者の意見があって、広島市の資料館の「観覧料」というのに非常に違和感を覚えるという内容であった。自分たちは見世物になっているのではという意見であった。「観覧料」という表現は引っ掛かるので、検討していただきたい。

【参考：市議会からの意見（令和3年2月）】

- （仮称）平和資料館の展示・運営に当たっては、市内各地の戦跡を活用し、関係者とも連携しながら、より有意義にすべきではないか。

議題（１）

事業計画の策定について

（説明資料）

- ・ 事業計画の策定について（入館料・開館日・開館時間・名称）

事業計画の策定について

1 事業計画の策定

（仮称）平和資料館の開館（令和4年度）に向けて、開館後の管理・運営方法や事業等を定めた事業計画を策定する。

事業計画策定に当たっては、基本計画をベースに、（仮称）平和資料館開発準備懇話会での意見や近隣の歴史・文化施設の状況等を参考にする。

2 事業計画に盛り込む内容

「入館料」・「開館日」・「開館時間」・「名称」等

【参考：（仮称）平和資料館基本計画（抜粋）】

第4章 運営計画

1. 運営

（1）運営手法（略）

（2）入館料

公共施設マネジメントの視点を踏まえ、原則、有料とし、具体的な料金体系については検討を行う。

（3）開館日

展示収蔵資料や施設の維持管理を適切に行う必要があることから、一定の休館日や資料の整理、展示更新など特別休館日を設けることを検討する。

（4）開館時間

近隣施設との調整を図るとともに、終戦記念日や原爆投下の日、企画展各種イベント開催時等には開館時間を変更するなど、柔軟に対応できるよう検討する。

2. 名称

展示内容などを踏まえ、対象とする分野や活動を表すものとして、今後、正式名称をはじめ、来館者に親しまれる愛称や略称なども検討する。

3. 組織（略）

4. 集客

（1）近隣施設等との連携やネットワークの構築による取り組み

近隣の歴史・文化施設の紹介を行う等、集客に向けた連携やネットワークづくり、他施設と連携した展示の企画や共同イベントの開催等も検討する。

（2）観光客等の取り込みを図る取り組み

市外からの観光客や外国人等、多様な来館者の来館に繋がるよう、イベントやプログラムを検討する。

入館料・開館日・開館時間

- 論点** 資料館の集客や近隣施設との回遊性を図る入館料・開館日・開館時間の設定
論点 (入館料) 年代等に応じた料金体系の設定
論点 (開館日・開館時間) イベント等に対応できる柔軟な設定

【参考：近隣の歴史・文化施設の状況】

(入館料)

施設名	料金区分		
	一般	中学・高校	小学生
松本清張記念館	600(480)	360(280)	240(190)
文学館	240(190)	120(90)	60(40)
小倉城	350(280)	200(160)	100(80)
小倉城庭園			

- ・（ ）は30名以上の団体割引
- ・松本清張記念館、文学館の両館に入館する場合はそれぞれが2割引となる共通割引チケットがある。
- ・松本清張記念館、小倉城・小倉城庭園との3施設共通券がある。
 (一般700円、中高生400円、小学生250円)

(減免)

- ・北九州市内の小中学校等の児童・生徒が学校教育等で引率者とともに観覧するとき(引率者を含む)
- ・療育手帳、身体障害者手帳を所持する者及びその付添人 等

【参考：他都市の施設の例】

施設名	料金区分		
	一般	高校	中学生以下
広島平和記念資料館	200(160)	100(無料)	無料
長崎原爆資料館	200(160)	100(80)	
呉市海事歴史科学館	500(400)	300(200)	200(100)

- ・広島市では一般は30名以上の団体割引・高校生は20名以上で無料。
- ・長崎市では15名以上の団体割引、
 また、県内の小中学校の児童若しくは生徒で、学校行事で入館する者等は無料。
- ・呉市では20名以上の団体割引、呉市内の高校生以下は無料。

2 開館日（休館日）

施設名	休館日（館内整理日は除く）
松本清張記念館	年末（12月29日～12月31日）
文学館	月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）・12月29日～1月3日
小倉城	年中無休
小倉城庭園	

3 開館時間

施設名	開館時間
松本清張記念館	午前9：30～午後6：00（入館は午後5：30まで）
文学館	
小倉城	（4月～10月）午前9：00～午後6：00（入館は午後5：30まで） （11月～3月）午前9：00～午後5：00（入館は午後4：30まで）
小倉城庭園	

【参考：他都市の施設の例】

- ・長崎原爆資料館では8月については通常より開館時間を延長している。

（長崎原爆資料館の事例）

4月、9月～翌3月 8:30～17:30（入館は17:00まで）

5月～8月 8:30～18:30（入館は18:00まで）

8月7日～9日 8:30～20:00（入館は19:30まで） ※広島市の場合は8月5日・6日は20:00まで

正式名称について

論点	資料館の趣旨やコンセプト等を伝える名称
論点	児童・学生が資料館の趣旨等を実感できる分かりやすい名称

名称候補	名称の考え方	
平和祈念館	市民が、本施設や原爆投下予定地であった勝山公園を訪れ、過去の歴史に触れることで、本施設は市民が平和を願う（「祈念」）場であることを表現する。	
	意見	・「祈念」と「記念」ではどちらでもいいと思う。 （課題） ・「祈念」はやや宗教色が感じられる。
平和記念館	「記念」とは、過去の出来事・人物などを後々の思い出に残しておくことであり、本施設を通して、戦争の惨禍や戦時下の暮らしを紹介し、戦争の記憶を市民に伝え、心に残すことを表現する。	
	意見	・「祈念」と「記念」ではどちらでもいいと思う。 ・「きねん」は「記念」の方がイメージできる。 ・「記念」は普通であるが、普通であることの意味もある。 （課題） ・「記念」は祝い事をイメージする。
平和都市歴史館	戦前から戦後の「歴史」を経て、非核平和都市宣言を行い「平和」を求める現在の“まち”の姿の総称を「平和都市」と表現する。	
	意見	・「歴史」扱うので「都市歴史」がいい。 ・「都市」という響きが現代的でいいと思う。 （課題） ・意味が広すぎて分かりにくいのでは。 ・「都市歴史」は北九州の大昔の歴史も扱うと誤解。
平和伝承館	本施設を通して、戦争の惨禍や戦時下の暮らしを後世に「伝」え、平和な世界を未来に継「承」することを表現する。	
	意見	・「伝承」という言葉がシンプルに分かりやすい。 ・幅広い世代に伝えるという意味なら「伝承」もいい。 （課題） ・意味が広すぎて分かりにくいのでは。 ・「伝承」は「で」と濁音なので、「平和」と繋げると発音しづらい

他都市における戦争・平和資料館(公設)について

1 空襲・市民生活・復興をテーマに展示

都市名	施設名(運営方式)	主な展示内容
北九州	戦時資料展示コーナー	○戦時下の市民の暮らし ○北九州の空襲
仙台	戦災復興記念館	○仙台空襲等の戦災被害・市民の暮らし ○戦後の復興から現在の仙台
浜松	浜松復興記念館	○浜松大空襲等の戦災被害・市民の暮らし ○戦後の復興から現在の浜松
名古屋	愛知・名古屋 戦争に関する資料館	○名古屋空襲を中心とした戦災被害・市民の暮らし
岡山	岡山空襲展示室	○岡山空襲等の戦災被害・市民の暮らし
滋賀	平和祈念館	○戦災被害・戦時下の市民の暮らし

2 あるテーマに特化したテーマに展示

都市名	施設名(運営方式)	主な展示内容
広島	広島平和記念資料館	○原子爆弾による被害 ○核兵器開発の歴史
呉	呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム)	○呉海軍工廠の歴史 ○軍艦建造のための技術
筑前町	大刀洗平和記念館	○大刀洗飛行場の歴史的役割(空襲・特攻) ○戦時下の暮らし
長崎	長崎原爆資料館	○原子爆弾による被害 ○核兵器開発の歴史
	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館	○原子爆弾による被害者の慰霊・鎮魂
沖縄	ひめゆり平和祈念資料館	○ひめゆり学徒の労苦 ○ひめゆり学徒の鎮魂

3 空襲＋戦争がもたらす問題をテーマに展示

都市名	施設名(運営方式)	主な展示内容
川崎	川崎市平和館	○川崎大空襲等の戦災被害・市民の暮らし ○平和を脅かす環境破壊、差別 ○現在の紛争、通常兵器・核兵器
堺	平和と人権資料館 (フェニックスミュージアム)	○堺大空襲等の戦災被害・市民の暮らし ○平和を脅かす環境破壊、差別 ○現在の紛争、通常兵器・核兵器
大阪	大阪国際平和センター (ピースおおさか)	○大阪空襲等の戦災被害・市民の暮らし ○平和を脅かす環境破壊、差別

区分		懇話会での意見(概要)	懇話会を受けての方向性・事業(議論たたき台)	
			事業方針	考えられる事業(イメージ)
自主事業 (常設展示以外)	子どもから大人まで学びを深めるための取り組み	○小学生が自分で興味をもって来るというのはあまりないので、学校として来ることが大事。 ○大人にはアピールの強いものをもっていかないといけない。 ○独自性を出すため、SDGsと連携させることも必要。 ○戦争映画の上映、戦争文学や地元に関するものの読み聞かせ、食のイベント、様々なことを行う姿勢が大切。 ○独自性を活かし、来館者がそれぞれの立場で学ぶことが必要。 ○多くの人は1回しか来るチャンスはない。そのチャンスを逃さず、興味を掻き立てるものを与える。 ○「学ぶ」以外にも「知る」、「出会う」という言葉に置き換えれば、事業内容等も変わってくるのではないか。 ○「SDGs」と関連付けた展示が最後にあれば、英語で伝えることは現代的な意味が広がる、インバウンドの対象を英語圏にも広げることになるのではないか。 ○若い人は、被爆者の気持ちは伝わるが、当時の状況等は理解できない。時代背景が分かる漫画等で訴えたいけばいい。	○独自性を発揮しながら、来館者の学びを支援する。 ○展示テーマを踏まえ、幅広い興味に対応するイベント等を企画・実施する。 ○SDGsの取り組み等、子どもたちの学校での学習と関連する題材を取り上げ、子どもたちの学びを深める。 ○来館者の世代等に応じて、講座の趣旨や内容等を整理し、企画・実施する。 ○SDGsの展示は、インバウンドの視点を踏まえ、英語圏を含め、国際的な発信を行う。 ○対象者にとって分かりやすい、効果的な手法を用いる。	【学びを深める・戦争の記憶を伝える取り組み・集客】 ○戦争体験者の声を聞く講演会の開催 ○漫画等を活用した子供向けの生活体験講座 ○学校の学習と連携した企画講座 ○幅広いテーマによる地域の歴史講座 ○近隣の歴史・文化施設との共同展示 ○近隣で開催されるイベント等との連携 ○地元企業との共同展示 ○他都市の類似施設との共同展示
	近隣の施設や学校等との連携による来館者の確保のための取り組み	○教育委員会と連携して、子ども達が一度は足を運ぶということは、短期の目標ではないか。 ○戦争の時代の背景を持った漫画雑誌や広告のチラシなど、子どもにアプローチしやすいものが特別展示では重要。 ○近隣の文化施設と連携する形が、理想的にできる場所。 ○多くの人に来てもらうことが評価となれば、産業観光と組み合わせることになると思う。 ○できるだけ入れ替えのある建物にしてリピーターに来てもらう。観光ということも意識する必要。 ○他都市の施設との情報交換も必要。 ○資料館一帯をアートな雰囲気等を醸すエリアに創りあげる。雰囲気に惹かれて、資料館に迷い込むという流れもある。	○資料館での平和学習や戦時下の歴史・文化・芸術等に関するフィールドとしてのプログラムを準備するため、学校や歴史・文化施設との連携を図る。 ○調査・研究成果を反映させた常設展示リニューアルや特別展示を実施する。 ○特別展示は、子どもたちの興味や関心のあるテーマで実施し、地域の歴史を学ぶ気持ちを喚起し、学校での学習の効果をさらに高める。 ○観光振興の視点から、近隣の歴史・文化施設以外にも商業施設等との連携を図る。 ○資料館周辺の環境等を活かしたれもが訪れたいくなる施設イメージづくりを図る。	○他都市の修学旅行誘致 ○周辺施設ライトアップ等との連携 ○周辺施設の紹介と併せた記念碑等の紹介(マップ作り) ○SDGs関連事業の展開(関係部局との連携) 【広報】 ○報道機関(新聞・雑誌)への情報提供 ○市政だより等の広報媒体を活用した情報発信 ○ホームページ、広報紙を活用した情報発信 ○学校(教員を含む)への情報提供 ○子ども向けの資料館パンフレットの作成
	活動や魅力等を発信するための取り組み	○純粋に広報を考える専門的な知識を持った人間が必要。 ○誰に発信するというのを設定して、細やかな活動にリンクした広報を行っていくことが大切。 ○幅広い世代に、この地に資料館がある意味をどう提示するか。 ○異業種と連携し、売込むという大局的なコンセプトも必要。 ○マスコミにも継続して取り上げてもらうことが必要。	○対象者に応じて、効果的な手法を用いた広報を行う。 ○外部連携を活かした広報を行う。 ○イベントの案内だけでなく、資料館の魅力等も発信する。	○観光客向けの周遊マップ(多言語対応)の作成 ○商業施設等でアウトリーチ展示・講座の実施

区分		懇話会での意見(概要)	懇話会を受けての方向性・事業(議論たたき台)	
			事業方針	考えられる事業(イメージ)
管理・運営	ボランティアの活用	○展示解説のボランティアの導入は望ましいが、どうしても、その人の主観が入る。慎重に検討すべき。 ○平和学習で子どもたちに事実を伝えることが必要なので、教育的立場での説明は、専門性のある学芸員や職員が行うべき。 ○ボランティアは若い人の育成ということなら、子どもたちに影響がない程度の範囲であればいいのでは。 ○管理する側が、できること、できないことをきちんと分けて、お手伝いいただくのがいい。 ○施設の管理・考え方も違うので、ボランティアの活用は、運営の全体像の中で運用規定をしっかりと示さないといけない。	○資料館で行うボランティア活動を整理するとともに、若い世代の活用も踏まえ、導入について研究する。 ○ボランティア活動が与える来館者への影響等も踏まえて、ルールづくりを進める。	○若い世代を対象とした地域人材・ボランティア養成講座 ○ボランティア運用規定等の整備
	資料の収集	○学芸員の役割は重要。展示のコンセプト等を守ることがきるかが大事だ。 ○寄贈を受けて展示するまでの一定のルールは必要。 ○寄贈は、活用できるかできないかが、いちばん大きな判断基準になる。 ○平和をテーマにした記念館とネットワークを結んで、資料収集のルール作りを行っていくことも必要。 ○資料にまつわるエピソードや寄贈者の戦争体験を詳しく聞き取っておくことが重要。 ○資料の保存は、アーカイブ化、映像に撮る等、3次元データ等、新しい物づくりの、この市においての保存の仕方も必要。 ○市民の戦争体験談を、映像アーカイブで語っていただくような、音声と映像で後々まで見ることができれば良い。 ○今後、戦後復興時の体験を集めることがメインになる。今からやるべきだ。	○他都市の事例等を参考に、寄贈資料等の積極的な活用を踏まえた資料収集・展示のルールづくりを進める。 ○資料の背景にあるエピソード等を聞き取る等、収集機会を積極的に活用する。 ○北九州市のものづくりまちの特性を活かす等、様々な手法を用いた資料保存の方法を検討する。 ○戦争体験や戦後復興の体験を収集する仕組みづくりを進める。	○資料収集・展示方針の規定等の整備 ○体験を聞き取りや資料収集のための学芸員の派遣 ○地域の特性等を活かした戦争体験等のアーカイブ化